

コウカ（紅花）



語源

ベニバナ属 *Carthamus* は、ベニバナを表すラテン語だが、アラビア語の動詞 *qurtum* クルトウム「染める」に由来する。ベニバナの紅色色素であるカーサミン(カルタミン) *Carthamin* も属名 *Carthamus* から取られている。一方、英語名 *safflower* サフラワーは、「黄色い」を意味するアラビア語形容詞 *asfar* アスファルに由来すると考えられている。現代アラビア語も *usful* ウスフルで、この系統の語である。種小名 *tinctorius* は、ラテン語 *tinctorius* ティンクトーリウス「染色用の、染料の」という形容詞の男性形。つまり、属名も種小名も染料が語源ということになる。

基原

Carthamus tinctorius Linne ベニバナ
キク科 1～2年生草本

薬用部分

管状花

産地

中国(河南、浙江、四川、チベットなど)、日本(山形) エジプト原産と言われているが、野生種は知られていない。栽培の歴史は古く、現在は世界各地で栽培されている。日本国内では観賞、染料用として栽培されているが、国外では生薬、染料原料として大規模栽培されている。



主な成分

紅色素(カルタミン)、黄色素(サフロールイエロー、サフロミンA、B)、フラボノイド(カルタミジン、ネオカルタミン、カルタモン)、脂肪油(リノール酸(主)、オレイン酸等)、ステロール類

主な薬効

通経、駆瘀血

代表的処方

漢方処方用薬として、婦人薬とみなされる処方及びその他の処方に少数例配合されている。

【治頭痛一方】

ジズソウイッポウ
湿疹、瘡(できもの、ただれ)、乳幼児の湿疹
(処方内容) 連翹／荊芥／朮／甘草／川芎／紅花／防風／大黄／忍冬

【折衝飲】

セッシュウイン
産後の悪露排泄、瘀血による下腹部の圧痛感、月経不順、月経痛、妊娠出血、婦人臓器の炎症(骨盤腹膜炎、子宮実質炎)に用いる
(処方内容) 牡丹皮／当帰／川芎／延胡索／芍薬／牛膝／桂枝／紅花／桃仁

文献報告

【抗凝血】

中国産紅花中の血小板凝集抑制物質の同定と定量

Yakugaku Zasshi, 1988, 108, 1101-3

【抗脂質酸化】

ベニバナ成分の生体内における抗酸化作用

日本栄養・食糧学雑誌, 2003, 56, 365-9

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「日本薬草全書」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp